

巻頭言

フォトニクス研究所の発足 ―ご挨拶にかえて―

フォトニクス研究所長 小林 壮一

千歳科学技術大学は平成 22 年 2 月 23 日に理事会の承認をもって、佐々木敬介初代学長時代から開設が俟たれていたフォトニクス研究所を発足させた。

本学開学は平成 10 年であるが、これに先立って、千歳市が推進を提唱する “大学を核に産学官が一体で光科学技術の基礎研究から応用研究、さらには研究成果の事業化まで連続して行う” 「フォトニクスバレー構想」があり、それを具現化するためフォトニクスワールドコンソーシアム（PWC）が平成 9 年 8 月に設立された。開学後には、PWC は NPO 法人化を果たし、千歳科学技術大学、民間企業、千歳市、商工会議所の協力の下、研究クラスター活動の推進、e-learning 事業の推進、地域インフラ整備事業への提案、国家プロジェクトの管理法人等を活発に行い、千歳科学技術大学の研究活動とその事業化を支えている。一方、千歳科学技術大学では平成 14 年に大学院光科学研究科博士前期課程を、平成 16 年には博士後期課程を開設しており、研究活動の促進と研究施設の充実が望まれていた。

以上の背景のもとに開設されたフォトニクス研究所の目的は、教員、大学院生及び学部学生が世界的研究活動を行える環境を整備することであり、具体的には、大学院生及び学部生がポスターセッションに参加できる千歳国際フォーラム（CIF）、企業と教員及び学生がコミュニケーションできるコロキウム、特許等知的財産管理、研究機器管理、等の研究サポート活動を行っている。本紀要の刊行もその重要な一環である。

はからずも初代所長を拝命し身の引き締まる思いであるが、本学が研究を基に世界に向けて発信できる機関としてフォトニクス研究所の存在が重要となり、学部及び大学院の教育・研究と共に企業との協力の下、産学官連携事業が千歳市において益々発展するために微力を尽くしたいと考えている。